

ブラジルの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を7.50%に引き下げ

10月25日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を0.75%引き下げ、年率7.50%とすることを全会一致で決定しました。

9会合連続での利下げとなり、2016年10月以降の利下げ幅は合計6.75%となりました。前回会合において、利下げペースの緩やかな減速が示唆されていたこともあり、利下げ幅の1.00%から0.75%への減速は市場参加者の大半の予想に沿うものでした。

ポイント② 利下げ幅を縮小

同中銀は、引き続き同国の経済活動を支援するために利下げを決定しましたが、今後の利下げの余地も考慮し、これまで4回連続で行なっていた1.00%の利下げ幅を今回は縮小した模様です。

9月のインフレ率（拡大消費者物価指数）は、前年比2.54%と8月実績の2.46%を0.08ポイント上回ったものの、同中銀の目標レンジの下限水準である3.0%を下回る低水準になっています。同中銀はインフレ動向について、「望ましい状況が続いている」としています。

今後のインフレ率見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2017年、2018年末については7.00%、その後2019年中に1.0%上昇となる8.0%に達する。）を前提としながら、2017年のインフレ率については3.3%、2018年は4.3%、2019年については4.2%程度と予想しています。

同中銀は、「状況が想定どおり推移しており、金融緩和ステージも考慮し、0.75%の利下げ幅が適切と考えた」としています。

ポイント③ 今後の更なる利下げペース減速を示唆

同中銀は、「状況が基本シナリオ通り推移すれば、金融緩和サイクルのステージも考慮し、現時点では次回の会合でも利下げペースを緩やかに減速させることが適切と考えられる」としています。

また、金融緩和プロセスについては引き続き、経済活動、リスクバランス、インフレ見通しなどを考慮すると述べています。

図1：政策金利の推移

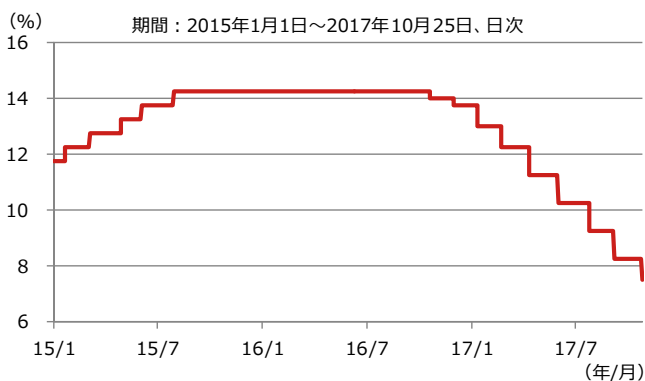


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

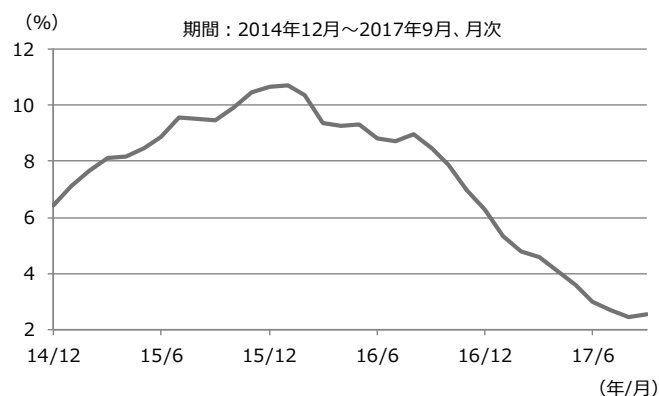


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

11月10日 IPCA（拡大消費者物価指数、10月）

11月23日 経常収支(10月)

12月6日 金融政策発表